アッラーから人々の世話を任されたいかなる僕も、その世話すべき人々に対して欺いた状態のまま死ぬべき日に死んだ者は、アッラーから天国を禁じられる。

マァキル・ブン・ヤサール（彼にアッラーのご満悦あれ）が預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）から伝えるところによれば、彼はこう言った：「アッラー から人々の世話を任されたいかなる僕も、その世話すべき人々に対して欺いた状態のまま死ぬべき日に死んだ者は、アッラーから天国を禁じられる。」
[真正] [二大真正集収録の伝承]

マァキル・ブン・ヤサールが伝えるこのハディースには、世話を任された者を欺く者に対する警告が含まれている。「アッラーから人々の世話を任されたいかなる僕も」とは、つまり人々の世話を任されることであり、それらの者たちのために役立つことを行い、その諸事において指導する地位を与えられた保護者のことである。 「その世話すべき人々に対して欺いた状態のまま死ぬべき日に死んだ者は」つまり、彼らを騙した状態で、悔悟することなく、魂が引き抜かれる時を迎えた者のことである。 欺きや至らなさについて悔悟する者は、この警告には該当しない。 人々の監督において欺いた者は、それが公共的なものであれ、私的なものであれ、正直かつ信頼される預言者（彼にアッラー からの祝福と平安あれ）によって「アッラーから天国を禁じられる」と警告されている。その意図するところは、このような行為を合法と見なした者のことであり、また別の見解では、「先代の者たちと共に天国に入ること」が禁じられる。

http://www.sunnah.global/hadeeth/ja/show/5335